

学校運営協議会委員

会長 山元 薫 (静岡大学准教授)

副会長 遠藤 久仁子(富士宮市社会福祉協議会 主幹)

杉浦 博(琴平区長)

関澤 新一(株式会社 大一セラム 代表取締役)

蓑 威頼(株式会社 アサギリ 代表取締役)

滝浪 香(令和4年度PTA 会長)

教職員 滝尾 彰彦(校長)

上村 一成(副校長)

小花 友梨(部主事)

校長あいさつ

先日、県より令和4年度河川・海岸、道路愛護団体等の知事褒章を受けた。富士宮市役所への報告も行った。開校より継続してきた北高生徒との花植え交流、建設ふじのみや女性部との花植えの交流の活動が認められ、沿道の花壇の花が地域の方の心を和ませ、四季の花で楽しませていることが評価された。生徒の美術作品“富士山”の作品(令和3年度卒業生徒)が、令和4年度県民手帳の表紙になった。学校は、前期学校評価振り返りから、後期の教育活動を実践している。このコミュニティスクールでご意見を頂き、後期学校運営に活かしていきたい。

1 令和4年度 前期学校評価について(副校長)

～令和4年度【前期】富士宮分校 学校評価アンケートより～ 報告

2 生徒の自治活動と防災学習について(部主事)

～R4 富士宮分校の生徒が主体的に取り組む自治活動・防災活動より～ 報告

3 協議 テーマ『危機管理意識の向上と安全教育』について

- ①教師の危機管理意識の向上のための準備は整っているか。
- ②生徒の緊急時の対応力を高めるために必要なことは何か。

1 教師の危機管理意識向上のために

委員 日々のトレーニング、繰り返しが大切である。

委員 危機管理について、学校でできることをやっているように思う。

普段からやっておくことが大切、個人個人がシミュレーションしておくことが有事で役立つ。

非常階段も使えないことがある、そのときにどうするか次の手を考えておく。

組織の中で数人でシミュレーションしておくことも大切、指示を出す司令塔が必要、いくつものパターンを常々考えておく。

委員 訓練の中でどう動くか、順番を明確にしておくことが大切。

普段から、生徒も含めてみんなが見える場所に掲示し、確実に行動できるようにしておく。

委員 簡単な言葉、誰にでも分かる言葉で行動の仕方を掲示しておくとうい。

2 生徒の安全教育のために

- 委員 自治活動が生徒の安全意識の向上にもつながる。自分で考え、判断して行動する力につながっている。
- 委員 生徒の安全意識を高めるための取り組みをよくやっている。支援が必要な生徒もいると思うので配慮も考えたい。
- 委員 練習用の消火器もあるので、使ってみるといい。地区の防災訓練で使用している。
- 委員 おたよりで、日頃どんな訓練、活動をやっているか知っている。学校でいろいろなことを実践してくれていることが分かった。
- いざという場面では、パニックになってしまうこともあるので、分かりやすい掲示やイラストも必要だと思う。
- 委員 安全教育について、学校以外の視点、社会との連携が大切。
- 企業からの視点、社会の交通ルール、スクールロイヤー介入など、外部機関を呼び、生徒が外部の人とつながることが大事。卒業後の社会で、自分で考えどう行動するかにつながる。
- 富士宮分校の習熟してきたカリキュラムの中で、主体性や自治力を育てることはとても大事なことであり、これがコンピテンシーにつながる。
- 富士宮分校のキャリア教育に位置づけ、3年間で自治力を高めることを大切にしてほしい。
- 先生たちが、自治力を高めるよさを理解できるとよい。“大変なんだけどやる！” 価値がある実践だと思うので、先生たちへのしかけが必要。
- 業務改善という視点では、何をスリム化させるのかが明確になってくる。

分校の安全教育として、何を指導したらよいのか。どうしたら安全に生活できるのか。近年、自転車事故も増えている。意見を伺いたい。

- 委員 通学の道、どの道を通るかの判断力を育てることが大切。
- 委員 社会でも自転車の事故が多い。自転車は自動車(歩行者ではない)という視点が必要。
- 継続的に交通ルールを守りましょうという指導しかない。
- 分かりやすい指導、障害物があるときは、自転車から降りるなど具体的に決めることも必要。
- 委員 通勤中に事故を起こしたケースがあった、本人はそのまま大丈夫と帰ってしまった。その場合は、ひき逃げになってしまうケースもある。たまたま事故を目撃していた人がいたので、状況確認、警察対応できた。
- 事故を起こしたその後の対応(会社に連絡する、警察を呼ぶなど)が大切。会社として保護者と話し、交通量の少ない通勤ルートに変更した。通勤途中で、判断に困る場面ではすぐに連絡することが大切であると伝えている。
- 委員 職場実習では、生徒や保護者にとって通勤はとても心配要素の一つであり、保護者の送迎の選択肢があってもいいのではないかと思う。
- 副校長 職場実習をどう考えるか、実習の在り方について検討していきたい。
- いずれ社会に出る上で、通勤も大切であり、通勤も含めて実習であると捉えてきた。
- 委員 選択肢、両方あってもいいのではないかと思う。同じ実習先で複数回実習をするのであれば(送迎⇒バスなど)段階を経てもいいのではないか。最後の実習は、通勤も含めて自力通勤の形でやった方がいい。会社では、安全第一を考えているので、雨が降ったら迎えに行くなどもしている。きちんと連絡を入れてもらうようにしている。

- 委員 通勤中の事故は極力減らしたいと考えている。会社にとって安全は第一優先事項としている。卒業生は、全て送迎している。送迎場面がコミュニケーションの場にもなっている。しかし、企業の考え方もあると思う。“自分で通勤が基本”と考える会社もある。少しずつ慣れていくことも必要で、将来的なことを考えれば、自立してほしい。
- 委員 企業の話を知ると、安全性の管理が大切なことが分かる。また、安全に働くための社会の理解が進んでいることも感じた。

全体を通しての感想

- 委員 生徒たちの自立を高めるために、生徒会活動など横(学年間)・縦(学部間)の動きが大切であると感じた。それをやっていくことで学校に活気が出る。学校が盛り上がると思う。組織作りでは、カリスマに頼りすぎないことも大切。学校の風通しはよくなっている。教員・生徒の信頼関係ができていたと感じた。
- 委員 学校はできることをやっている。頑張っていると感じた。自治力を育てる上で、成果、効果を求めすぎないことも大切。失敗させていい、うまくいなくていい、失敗したときに考えるということが大切。
- 委員 学校は、全体的にしっかりやっている。課題を改善しようとする姿勢を感じた。“安全を何よりも優先する”意識は大切。もっていてよい感覚である。安全対策に力を入れることで保護者の心配もなくなっていく。安心な学校作りにつながる。生徒が自分で判断したり考えたりすることが大切。
- 委員 このような取り組みをしていることを、市長さん、議員さんは知っているだろうか。市に理解をしてもらえるとよい。琴平区では、グラウンドゴルフの大会などもやっている。分校と交流できるとよい。
- 委員 内容の濃い充実した会議だった。学校が生徒の主体性を尊重していることが分かった。生徒の成長も感じる。成功、挫折、失敗も大切だということが印象に残った。社会に出てからこの経験が糧になると思う。
- 委員 富士宮分校のカリキュラム、教育課程もいい。教員、生徒、自分たちで仲間と共に学校を作っていくということが大切。自治活動や防災教育に取り組むことなど、受身的ではなく主体的に物事を考えていくことはとても価値がある。そのことにより、生徒は自分の人生を作っていく、生きることを学んでいる。ホームページからの生徒の発信期待している。子どもたち視線の発信が大切。中学校にも発信してほしい。
- 校長 失敗や反省から振り返り、その学びが社会につながる。学校の価値観だけではなく、社会的な視点から物事を考えていけるようにしていきたい。